

宮城県感染症発生動向調査情報

令和8年7月23日発行

2026.7.13 ~ 2026.7.19 - 第29週 -

1. 集計

上段は患者発生数、下段は定点当たり

疾 病		保 健 所					仙 台 市	宮 城 県 (含む仙台市)	
		仙南	塩釜	大崎	石巻	気仙沼		患者数	累計
急性呼吸器 感染症定点	急性呼吸器感染症 *1	482 96.40	394 39.40	377 75.40	356 71.20	124 31.00	1,431 55.04	3,164 57.53	110,983
	インフルエンザ *2		1 0.10		1 0.20	2 0.50	1 0.04	5 0.09	17,162
	新型コロナウイルス感染症 *2	3 0.60	8 0.80	1 0.20	1 0.20	1 0.25	2 0.08	16 0.29	3,138
小児科定点	RSウイルス感染症 *2						4 0.27	4 0.13	332
	咽頭結膜熱 *2		3 0.50	2 0.67			10 0.67	15 0.48	230
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 *2	5 2.50	5 0.83	12 4.00	10 3.33		27 1.80	59 1.90	1,982
	感染性胃腸炎	5 2.50	8 1.33	2 0.67	4 1.33	13 6.50	39 2.60	71 2.29	4,054
	水痘				3 1.00	1 0.50	14 0.93	18 0.58	353
	手足口病	25 12.50	32 5.33	21 7.00	3 1.00	20 10.00	96 6.40	197 6.35	518
	伝染性紅斑			1 0.33				1 0.03	81
	突発性発しん		2 0.33	4 1.33	1 0.33		7 0.47	14 0.45	221
	ヘルパンギーナ *2		3 0.50	18 6.00	1 0.33		25 1.67	47 1.52	117
	流行性耳下腺炎			1 0.33			1 0.07	2 0.06	19
眼科定点	急性出血性結膜炎							0	2
	流行性角結膜炎			6 6.00			4 0.67	10 0.83	175
基幹定点	感染性胃腸炎(ロタウイルス)							0	3
	クラミア肺炎(オウム病は除く)							0	0
	細菌性髄膜炎(真菌性を含む)						1 0.20	1 0.10	6
	マイコプラズマ肺炎						4 0.80	4 0.40	64
	無菌性髄膜炎							0	3
拡 張 疾 病	マイコプラズマ肺炎(小児科)	5	1		2		3		
	川崎病						1		
	不明発疹症						2		

*1 急性呼吸器感染症は、急性の上気道炎(鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎)又は下気道炎(気管支炎、細気管支炎、肺炎)を指す病原体による症候群の総称です。
*2 急性呼吸器感染症に含まれる感染症

【入院患者(仙台市を含む基幹定点報告)】

インフルエンザ: 0例(前週比較:0例)
新型コロナウイルス感染症: 1例(前週比較:+1例)
* 定点医療機関の院内感染を反映することもあります。

【病原体検出情報】

～宮城県保健環境センター～

急性呼吸器感染症患者より
第29週採取分(7検体)
エンテロウイルス属 4件、ヒトメタニューモウイルス 1件、
パラインフルエンザウイルス3型 2件、アデノウイルス 1件、陰性 1件
※ 一つの検体から複数の病原体が検出されることがあります。

【新型コロナウイルス ゲノム解析結果】 1/8に情報更新

解析結果は下記URLを参照ください。
<https://www.pref.miyagi.jp/site/covid-19/02-02.html>

参考 ～仙台医療センターウイルスセンターウイルス分離情報～

検査結果は下記URLを参照ください。
<https://nsmc.hosp.go.jp/Subject/26/virus/weekly.html>

4. 今週のコメント

【手足口病】

県内の定点当たりの患者報告数が前週の4.58人から6.35人へと増加し、石巻を除く全ての管内で令和6年度まで運用していた警報発表基準値を上回りました。手足口病は、手や足、口の中などに水疱性の発疹ができる感染症で、乳幼児を中心に夏に流行します。感染者の咳、くしゃみなどの飛沫や便中のウイルスにより感染します。咳エチケットや日常的な手洗い、おむつ処理後は石鹸で十分に手洗いをする、タオルの共用は避けるなどの対策が重要です。

【ヘルパンギーナ】

県内の定点当たりの患者報告数が増加傾向で、大崎管内では令和6年度まで運用していた警報発表基準値を上回りました。ヘルパンギーナは、発熱とともにのどに痛みと水疱が現れる夏風邪の一種で、乳幼児を中心に夏に流行します。原因は手足口病と同じ種類のウイルスですので、同様な感染対策が効果的です。

【腸管出血性大腸菌感染症】

ベロ毒素を産生する大腸菌による感染症で、感染経路は患者からの二次感染や、食品等を介した経口感染、家畜等の保菌動物等の接触が報告されています。症状は腹痛、下痢、血便などですが、重症化すると溶血性尿毒症症候群(HUS)を引き起こすことがあります。患者数は夏に増加する傾向があります。食品の適切な取り扱いや手洗いの徹底などを心がけましょう。

3. 宮城県感染症対策委員会情報解析部会

【定点把握対象疾患】

令和7年第15週から、国の基準が見直されるまでの間、警報開始/継続基準値及び注意報開始基準値については参考値として取り扱います。

宮城県保健環境センター(宮城県結核・感染症情報センター)
電話 022-257-7228 FAX 022-256-3362
HPアドレス: <https://www.pref.miyagi.jp/site/hokans/kansen-center.html>
宮城県保健福祉部疾病・感染症対策課
電話 022-211-3644

